授業に関するアンケート（2017年度春学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね4ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
食物科学専攻科目・管理栄養士専攻科目

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度により進み方が速くなったり、遅くなったりする箇所があるが、ほぼシラバスどおりに進行している。 ・シラバスとずれることについては、学生もそのことを理解していた。 ・シラバスそのものを見ていない学生もおり、シラバスへの意識の低い者もいることを理解し、対処する必要がある。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目については、理解を図るために小テストを行っているが、予習復習は不可欠である。 ・小テストやレポート、課題など、受講生の理解を常に意識し対応した授業・実習・演習を行った科目の評価は高かったようある。 ・実験・実習科目ではほとんどの科目で学生の理解度を確かめながら、授業が進められていた。 ・科目によっては学力差が大きいと、理解度も差が大きいものがあった。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業レベルについては、全学と比べてやや評点は低い傾向にあったが、概ねあっていると感じているようである。しかし、ばらつきが大きい。 ・基礎的な科目の知識が身につけている事や予習復習により、授業レベルに合わせてほしい。 ・学生の学力差が大きいと、授業の進め方に工夫が必要である。 ・「自分に合っている」授業レベルがいいとは限らない。教員を引き下げるのではなく、授業のレベルに学生が合わせることも必要と考える。 ・実験実習科目では、すでに講義科目で学んでいる内容の実践であることを理解していないと感じる。
4. 教員からの一方的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習科目では実験台を巡回することや、班のメンバーとの意見交換、グループでの発表など双方向の授業がやりやすく、評点も高くなった。 ・講義科目では、学生への問いかけや課題へのコメント、自由記述欄への記載、学生の発表など双方向への工夫を取り入れている授業に関しては、評点がたかくなった。 ・基礎科目や資格にかかわる科目は短時間に多くのことを取り上げ、解説し理解させなければならない。授業時間中にどれほど双方向のための時間を割けるのかはむずかしいところであるが、工夫したい。 ・一方にならないように、学生への問いかけや質問を行うが、積極的に答えてもらえないので、答えるように復習などもしてほしい。
5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や実習レポートはその都度採点し、提出翌週に間違った部分がある人に、コメントをつけて返却し、再提出を求めた。この方法により実験や実習レポートの書き方を向上させることができた。 ・講義科目でも、提出物あるいは小テストにコメントを書いて返却した場合は評価が高くなった。 ・レポートで間違いの多い箇所について、誘導式の設問プリントを作成して配布し、同じ実験班の他のメンバーとディスカッションさせた上で記入したプリントを時間内に提出させ、添削している。 ・提出物に関しては、実験実習科目、講義科目ともにコメントを書き、返却を望む声が多く、そのようにされている科目については評価が高くなった。

6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
<ul style="list-style-type: none"> ・講義や実験実習の科目によりかなりばらつきのある結果となった。 ・ほとんどの講義・実験実習科目で教科書を補うため、プリントの配布、ビデオの活用、スライド、マナーの活用がされていた。 ・実験科目ではデモンストレーションや図による説明などの評価が高かった。 ・授業と実習・演習が連動して行われているので、受講生の理解を双方で確認し、補完し合っていた。 ・受講生によって、受け止め方がかなり異なり、現状のやり方では理解できない受講生がいると考えられた。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。
<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目ではノート作成を促し、ノートのまとめ方などにコメントを書いたり、小テストを行うことで自主学習を促していた。 ・授業では、予習・復習を学生に積極的に勧めているが、自主学習を促す工夫はレポート課題だけになっていた。 ・実習・演習においてはレポートを課しており、また予習しなければ実験を誤ることがあり、自主学習が促されていた。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを工夫して欲しいと回答した学生が多かったので改善したい。 ・あえてパワーポイントを使用せず、紙に自分でまとめる訓練をしているということも理解してほしい。 ・話し方や声が聞き取りにくいといった声があるので、意識して気をつけていきたい。 ・学生実験で、今期初めてパワーポイントを使用した。改良を重ねてより有効に使用したい。 ・さまざまな工夫は考えていくが、実験・実習科目などではすべてを指示されてやるのではなく考える姿勢も必要と考える。

(2) この授業のための学修行動に関する質問結果について

9. この授業の予習、復習、自主学習に1週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習科目ではレポートを書く必要があることから、3時間以上と答える学生が多かった。 ・講義科目では、ノート提出の課題や小テストのあるものは長くなる傾向があるが、概ね1~2時間前後であった。 ・講義科目に関して、学修時間は少な目だが、他の教科（実習等）の課題の兼ね合いも考える必要がある。 ・レポート課題が重いものは学修時間が長く、そうでないものは少ない傾向にあり、強制されないと学習しにくい状況にある。 ・早い時期から、定期試験で確認する事柄（到達目標）を提示しても、十分学習時間をかけて準備することができない学生も少なからずいる。
10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目では評点が低く、実験・実習科目では評点が高い傾向にあった。 ・講義科目でも少人数の講義では、活発に議論することができたが、大講義では難しかった。 ・質問の出やすい学生実験でも回答がばらついており、個人差が大きい。 ・科目によって評点のばらつきが大きかった。 ・もっと積極的に質問をしてほしい。尋ねてもノーアクションが多かったように思う。 ・実験・実習科目では、意見を述べてもらう機会も設けることができたが、講義科目では基礎科目や資格にかかわる必修科目は教える項目が多く、意見を述べてもらう時間を取るの難しかった。 ・質問は大歓迎だが、質問に来る人が残念ながら少なかった。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生はどうしても国家試験対策に固執しがちで、学修を深める（応用まで学修する）と言うより、国家試験を解けるスキルを望みがちであった。知的好奇心を刺激する授業の工夫を行いたい。 ・実験・実習科目では、学習を深めたいと回答している学生が比較的多かった。 ・深めたいという意識がある科目とあまり興味のわかない科目で大きくわかれた。

・管理栄養士必修科目である場合、授業を受けているとしか感じていないように思われる。

12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。

- ・いずれの科目も必修科目であるため、「必修」と答えた学生が最も多かった。
- ・必修科目がほとんどだった。教職科目については「栄養教諭になりたいから」だと思われる。
- ・京の料理と菓子以外は、卒業必修や資格必修であるため、その講義が元々興味のあるものかどうか不明。
- ・食と健康管理は、今年度時間割上必修直前に配当され、受講者数が6倍程度増加した。
- ・「食物学のための数学と物理」について、「先輩・友人の勧め」が非常に多かった（44.2%）。

(3) この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。

- ・講義科目と実験・実習科目での傾向はみられず、平均すると全学と同等であったが、ばらつきがみられた。
- ・講義科目では、レポートや資料配布・小テストが効果的にできているものもあった。
- ・実験・実習に関して、個人指導ができたことが評価されていたと思われる。
- ・実験科目での高評価は、Q4の指導巡回を丁寧に行ったことと連動していると思われる。
- ・Q14と人数にするとほぼ同数の「わからない」と回答する学生がいる。到達目標を意識せずに受講しているのか、あるいは、到達目標の意識自体していない学生がいるように思う。

14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。

- ・実験・実習科目では講義より達成感が強かったようである。
- ・到達目標を試験前に聞いてくるので、学生も到達目標を未確認状態のように思われる。

15. DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。

- ・実験科目では、「分析力」「思考力」「コミュニケーション力」「思いやる力」「リーダーシップ」「変化対応力」「自己管理能力」との回答が高かった。講義科目では、「分析力」「思考力」が高かった。
- ・同じ科目で複数クラスあるものを比較するとかなり違いがある。科目内容だけでなくクラスの雰囲気にも左右されると感じた
- ・アクティブラーニングの手法を取り入れることで、プレゼンテーション力が身についたと答える学生が、増加した。
- ・学生の発表時間を設けたので「プレゼンテーション力」の向上が最も多くなった。

(4) その他

- ・授業・実習について、学生は資格取得のための対策に走りがちである。学生にはその後（資格を取った後のキャリア形成のための学修）を意識させて、授業や実習の視野を広げ幅のある学修ができるように工夫したい。
- ・2年次「生物学実験」の復習を兼ねて、マナーに「マッチの擦り方」「ガスバーナーのつけ方」「無菌操作の基本」動画をアップしたことについて、任意で役に立ったかを問うたところ、3.14（ややそう思う）という結果であった。想像よりは動画を見た学生が多かったことから、一定の効果はあったものと判断された。
- ・課題などが多かったり、時間が不十分だったりしたときに1-2名であるが不満の声が上がるように思われる。改善が困難な点もあるが、講義の話し方や教材研究をさらに深め、考える力を促す授業にしたいと考えている。
- ・学生実験において、全員出席の中全員が提出したが、未回答が3名いたことになっており、白紙回答があったと考えられる。そういう学生がいる、ということを理解しておく必要があると感じた。
- ・今回のアンケートは、質問項目が多すぎるように思う。また、学生に質問の意図が伝わりにくい質問もあった。
- ・今後の授業改善のため、学生が感じたことを自由記述してくれると非常に参考になるのだが、今回のアンケートは項目ごとの自由記述欄であったためか、ほとんど記入されていなかった。今後の授業の改善に繋がりにくいと感じた。